

令和5年度府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）

1 現状及び課題等

(1) 学習改善の視点（生徒の学び方）

- ①各教科の授業において、自分の考えを伝えたり、他人と対話したりすることに対して苦手意識を感じている生徒がいる。
- ②「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、各教科の授業を得意と感じる生徒の割合が、都の平均より若干下回っている。
- ③同調査では、学習の動機について「分かることやできることが楽しい」と感じる生徒の割合が高い一方で、「しっかり考えられるようになりたい」と思う生徒の割合が都の平均を若干下回っている。

(2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- ①各教科の授業において、生徒がより主体的に学習に取り組むことができるような授業改善が必要である。
- ②「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、各教科の授業の内容に対する理解度が、都の平均より若干下回っている。
- ③同調査では、授業において他の人と考えを交流したり、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明したりする時間が、都の平均値を下回っている。

2 学校全体で目指す授業像

(1) 目指す生徒の学びの姿

- 自ら分かるようになりたい、できるようになりたいという意志を持って自律的に学習に取り組み、分からないところは教師や他の人に聞くことができる。
- 自分の考えをしっかりと持ち、他の人に伝えたり、さらに他の人の考えを交流したりすることによって、協働的に学びを深めることの楽しさと大切さを実感している。
- 自分の考えを深めて伝えたり、他の人の考えを知ったりするための手段としてICT等を活用し、協働的に学ぶことができる。

(2) 目指す授業像

- 基礎・基本の定着のために「分かる授業」「個に応じた指導」を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起し、個別最適な学び並びに協働的な学びを実践する。
- 他者との共同作業を行う機会を授業で設定することにより、生徒の自己有用感を醸成しながら、他者と協働して深い学びが実現できる授業を目指す。
- 協働的な学びのための手段としてICT等を積極的に活用することにより、生徒が自分の考えを可視化したり、他の人の考えと比較したりする機会をつくる。

3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

(1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	生徒が主体的に題材に取り組むため、ICT 機器等を活用してイメージを持ちやすくなるよう努める。自分の意見をまとめて発表する場を設ける。	美術	主体的に題材に取り組む、自らの主題の生成に繋げる手立ての一つとして、対話をもとにした言語活動を積極的に取り入れながら、改善に努める。
数学	生徒が主体的に取り組む、考え続けている授業を展開する。考えを促す発問を取り入れる。思考の流れがわかる板書にする。	技術	主体的に題材や、自らの課題に取り組む手立ての一つとして、簡単な導入題材等を取り入れて改善に取り組む。
社会	生徒が自らの学びを見つめつつ授業に取り組むために、課題設定をしたり、資料集や ICT の活用を行ったりして深い学びの実現を目指している。	家庭	主体的に題材や、自らの課題に取り組むために、視覚教材等で生徒の関心を引き出す。個別最適な学習を行えるような教材づくりを行い改善に取り組む。
理科	生徒が身近な事物・事象に興味関心を持って、主体的に学習に取り組めるように授業改善を図る。そのために、実験や観察などを行って話し合う活動を重視したり、日常生活と結び付けた題材を取り上げたりする。	保健体育	生徒が主体的に自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組むために、計画的にICT機器などを活用するとともに、言語活動を取り入れる。
音楽	生徒が主体的に学習に取り組めるよう、生徒の現状に合った題材設定を行う。また、ICT 機器を適宜活用するなどして生徒の興味・関心を引きだし、表現活動の充実を目指す。	外国語	生徒が主体的に学習に取り組めるように、ICT 機器等を積極的に活用して生徒の関心を引き出す。言語活動を多く取り入れ、話す力を伸ばし、発表・やりとり両方の力を育てていく。

(2) 生徒用タブレット端末の活用【市共通】

まずは教師が授業で効果的に ICT を活用することから改善を図り、さらに生徒が学習において自ら活用できるような授業展開を目指す。校内研究のテーマとして ICT の活用を設定し、授業研究を行う。